

**苗の保管状態が本田いぐさの活着に及ぼす影響**

苗掘りから植付けまでいぐさ苗を水分補給しない状態で保管した場合、6日間で枯死株率が10%以上になることがあり、この状態で補植しないと、収量が約2割減る。一方、植付苗の根を水に浸けて室内保管しておく、苗掘り・苗割りから植付けまで7日間経過しても枯死株率は1%以下に収まる。

農業研究センター い業研究所 育種・栽培研究室 (担当者:湯野 康博)

**研究のねらい**

植付苗の状態はその後のいぐさ生育、収量等に大きく影響する。この研究では苗割り条件の中で、苗の水分補給しない状態での保管日数が本田いぐさに及ぼす影響を調査し、適切な苗割り作業および苗の保管方法を明らかにすることで安定生産のための啓蒙普及の一助とする。

**研究の成果**

1. 苗掘りから苗割りまで掘り取り苗を水分補給しない状態で室内(コンクリート床)保管した場合、6日間経過すると枯死株率が10%以上になることがあり、これを補植しないと収量が約2割減る。(図1)
2. 苗割り後の植付苗に水分補給しないで室内(コンクリート床)保管し7日間経過すると、枯死株率が10%以上と高くなることがある。一方、植付苗を室内水槽で水に浸けて保管しておく、7日間経過しても枯死株率は1%以下と低い。(図2)
3. 産年によって、植付時期の気象により、枯死株の発生に多少がある。(表1)

以上のことから、枯死株の発生は産年により多少があるものの、多発時には、二次苗掘り取りから苗割りまで水分補給しない状態で6日保管すると枯死株の発生が多くなる。同様に、植付苗を水分補給しない状態で7日保管すると枯死株の発生が多くなる。一方、7日間保管でも植付苗を室内水槽で水に浸けておくと、枯死株率は低い。

**普及上の留意点**

1. 本田植付時の注意事項のひとつとして、このデータを活用していただきたい。現場では、いろいろな苗割り体系、植付苗保管方法があるので、状況に応じて活用する必要がある。

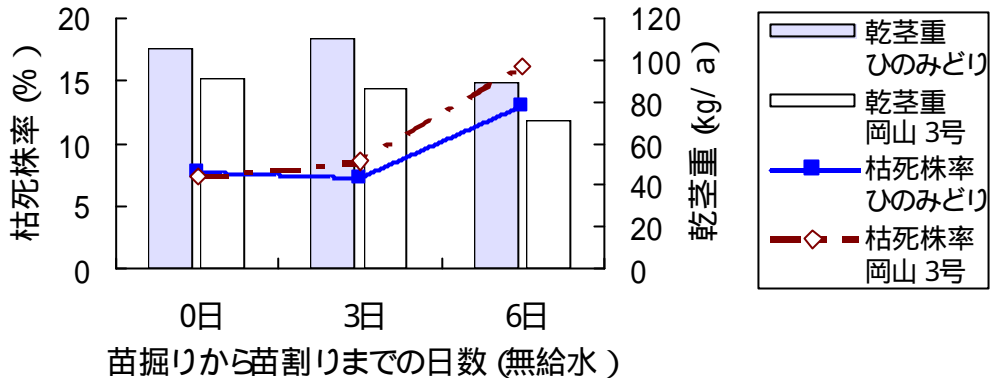


図1 掘り取り苗の保管日数と枯死・収量の関係

注) 2002年産、調査日 3月4日、苗割りから植付けまでは1日浸水

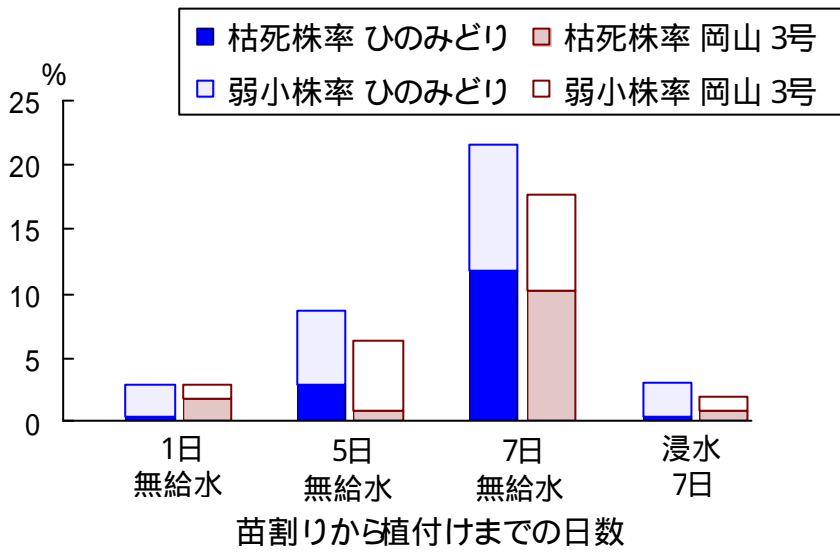


図2 植付苗の保管日数と枯死率の関係

注) 2004年産、調査日 3月4日、苗割りは掘り取りと同日

表1 産年別の枯死株率 (単位: %)

品 種	2002年産	2003年産	2004年産
ひのみどり	13.0	2.8	4.4
岡山 3号	16.2	1.4	2.5

注) 掘り取り苗の保管日数は6日